

飛び入学に関する
自己点検・評価報告書

令和4年4月

日本体育大学 体育学部

Nippon Sport Science University
Faculty of Sport Science

飛び入学に関する自己点検・評価報告書

自己点検・評価の状況について

飛び入学に関する自己点検・評価の実施状況（実施時期、実施体制、評価結果の概要、評価結果の公表方法等）について記入してください。

実施時期：令和4年4月

実施体制：アドミッションセンターにおいて実施し、アドミッションセンター運営委員会の意見を聞き、とりまとめた。

評価結果の概要：評価項目は全体評価、広報について、選考方法について、受入体制について

評価結果の公表方法：大学ホームページにて報告する。

1 飛び入学の導入経緯及び趣旨等について

1-1 飛び入学を導入する経緯

日本体育大学は、建学の精神に基づき社会的使命・目標を実現するべく掲げた「大学改革構想」の柱の一つとして、平成24年度入試以降、入試制度改革に取り組んできた。それにより様々な基準の入試制度を導入することで優秀で多様な学生を獲得し、社会に貢献できる人材養成の拡充を目指してきた。

体育学部の新しい入試制度は、より学力の高い学生獲得のために学力重視の一般入試後期、推薦入試（一般推薦）、地方スポーツ振興の担い手を養成するための地域ブロックAO入試（平成30年廃止）、スポーツを通じた国際的な活躍を期待できる人材を受け入れる外国人留学生入試、社会人アスリートのセカンドキャリアを支援するためのリカレント入試を順次導入した。

そして、優れた資質を有するアスリートを早期に受け入れて更にその能力を伸ばさせるための飛び入学選抜を平成26年度入試から導入した。

1-2 飛び入学を実施する趣旨

日本体育大学は、本学が展開する体育及びスポーツ科学に関する分野において、学術と実務を教授研究し、国際的視野をもった教養高い人間を育成するとともに、広く人類の健康の増進及び福祉の充実と、スポーツ文化の向上及び体育の発展に貢献してきており、更に本学が社会的貢献を図るために、本学の目的を理解し実践しようとする18歳に満たない者であっても高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者を含む）を対象に飛び入学選抜に出願する資格を与え、優れた資質を有するアスリートを早期に受け入れて更にその能力を伸ばさせるため。

1-3 飛び入学をする学生に求める資質

体育及びスポーツ科学の分野の世界的な競技大会（オリンピック及びこれに準ずる国際大会）において上位入賞の経験等を有すること。

1-4 飛び入学を実施する有効性

体育及びスポーツ科学の分野の優れた資質を有するアスリートを早期に受け入れて、本学の学術と実務を教授研究することで更にその能力を伸ばさせて世界的な競技大会（オリンピック及びこれに準ずる国際大会）において上位入賞等の活躍を積み重ねる。これにより本学が掲げる社会的使命にある我が国のスポーツ文化の深化・発展に努めるとともに、オリンピック・ムーブメントを主導的に推進し、スポーツの「力」を基軸に、国際平和の実現に寄与することに繋がるものである。

特に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定を受けて、本学関係の出場者数目標を70名に設定したことから、1人でも多くの優れた資質を有するアスリートの早期入学生を受入れて指導を充実することで、同大会においてより高い成果が期待できる。

2 広報活動について

2-1 飛び入学選抜の実施決定と届出手続

<令和4年度入学者選抜>
実施決定：令和3年3月8日教授会
募集分野：体育及びスポーツ分野
学部学科：体育学部全学科（体育学科、健康学科）
募集人員：体育学部全体で若干名

実施計画報告書提出：令和3年9月22日
募集要項提出：令和3年9月22日

2-2 飛び入学選抜の広報活動

募集公表開始：令和3年9月中旬、本学ホームページに平成26年度入試より「飛び入学選抜」の概要を掲出して実施を案内すると共に、随時問合せを受付ける旨を明記している。
募集要項配付開始：令和3年9月中旬
事前相談：本学ホームページ掲出及び募集要項配付開始から随時対応。

3 飛び入学選抜の実施状況について

3-1 飛び入学選抜の出願及び選考状況

出願受付期間：令和4年1月20日～令和4年1月31日
一次選考可否発表：令和4年2月15日
二次選考日：令和4年3月3日
二次選考可否発表日：令和4年3月9日
入学手続締切日：令和4年3月16日

志願者：0人
受験者：0人
合格者：0人
入学者：0人

実施状況報告書提出：令和4年4月8日付、文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室学務課

3-2 出願に際して工夫したこと

出願に関する問合せがあった受験生と保護者及び在籍校進路指導部等関係者へ、飛び入学に関する説明、入学試験の内容及び入学後の教育・指導体制については過年度実績の状況を交えた詳細な説明を行い、出願を検討する期間を十分に取れるよう出願期間及び選考期日を設定した。

3-3 選考方針について

体育・スポーツの普及・発展を積極的に推進し、健全な心身を兼ね備えた全人格的な人間を多数育成することを教育理念とする本学での教育・研究に順応しうる基礎的な学力及び本学の教育・研究分野について学修する意欲を確認するための選考を準備した。
選考方法は、小論文試験と個人面接試験を準備した。

3 - 4 選考方法について (出題内容・出題意図等)

小論文試験においては、体育・スポーツ科学の分野を軸として社会との関わり等をテーマとして、自身の経験を基に学んだ事柄を文章で表現する能力を確認する選考方法とした。
また、面接試験においては、大学入学後の抱負や将来の展望に関する質問を中心に就学意欲を確認する選考方法とした。

4 入学後の教育内容、指導・サポート体制について

4 - 1 教育内容の特色について

本学の飛び入学制度の特徴は、本報告書「1 飛び入学の導入経緯及び趣旨等について」で述べた通り、国際的に優れた競技スポーツ実績を有する学生を受け入れ、更にもその能力を伸ばさせることを目的としているため、日本を代表する選手としての教養・人格を備えられるよう独自の教育・研究を創造的に展開する。

4 - 2 指導・サポート体制の特色について

本学部は第1・2学年クラス担任教員及び第3・4学年が割当てられており、学生生活における相談・助言を行う体制及び就学する2つのキャンパスに開設されている学生支援センターにて早期入学生担当職員を割当て、各種の相談・助言を行う体制を整備している。

学修環境については、国際的に優れた競技スポーツ実績を有する学生が多数在籍する本学では、日本代表選手として中央競技団体からオリンピック・パラリンピック及び世界選手権大会等へ長期に亘り海外派遣されることが多々あるため、派遣期間中はメディア(学内の教育支援システム(「n-pass」))を高度に利用し教室等以外の場所で受講・学修・単位修得が可能な環境を整備しており、他のトップアスリート学生同様に授業担当教員との事前打ち合わせにより適切な授業展開を行うこととしている。

また、本学の学友会運動部に所属する場合には、本学教職員の当該運動部長及びコーチが競技力向上の指導の他に就学上の相談・助言を担っていく。更には2つのキャンパスで必要に応じてカウンセラーによる相談対応を行う体制も整備している。

4 - 3 学生の在学状況について

入学年度	入学者数	在学学生数	転学者等
令和4年度	0人	0人	0人
令和3年度	0人	0人	0人
令和2年度	0人	0人	0人
令和元年度(平成31年度)	0人	0人	0人
合計	0人	0人	0人

平成26年度入学者は平成29年度(平成30年3月)卒業、平成27年度、28年度入学者は0名
平成29年度入学者は令和3年度(令和4年3月)卒業

4 - 4 学生の就学状況について

平成29年度入学者については、競技に専念するため、令和2年04月01日から令和3年03月31日まで休学したが、令和3年度に復学し、令和4年3月に卒業した。

4 - 5 学生の競技活動状況について

本選抜における入学者は、競技活動において、入学前の競技レベルを順調に維持、伸長させ、在学中も世界的な大会で好成績を挙げ、世界トップレベルで競技活動を展開した。

5 自己点検・評価の総括及び今後の取組みについて

5 - 1 飛び入学に関する自己点検・評価を総括するにあたり、制度導入から指導受け入れ体制の状況について評価した結果について

飛び入学選抜制度の導入は、大学改革の柱の一つとして平成 24 年度入試から入試制度改革を進める中で平成 26 年度入試から導入された。この入試制度の趣旨は、本学の建学の精神及び社会的使命・目標を実現するために重要なものであり、導入時期については遅きに失した感があったが、導入初年度に入学した 1 名については、在籍中の良好な就学状況及び競技実績、卒業後の競技実績を観るところ概ね良好な状況にあることから、就学面及び競技面の指導体制は円滑に行われていたと評価できる。

また同様に、当制度導入 4 年目の平成 29 年度入学の 1 名についても就学面及び競技面の良好な様子から、指導体制は円滑に行われていると評価できる。

更に、学生が履修する授業の指導教員とのコミュニケーションは、面談による学習計画の確認を行ったうえで、学内ポータルサイトの活用及び遠征先からの電子メールでのやり取りで指導が円滑に進められている。

これは、導入初年度から実施している入学者の受入体制として、学生の不安を解消し、充実した就学環境で学生生活をおくれるよう、担任教員及び学生支援センターを中心に競技指導の関係者との密な連携を取り、学生とコミュニケーションをとるように務めている成果であると言える。

5 - 2 今後の取組みについて

次年度の実施に向けての取組み

平成 26 年度の導入初年度に入学した 1 名が、良好な修学及び競技活動を経て無事 4 年間で卒業したこと。また、導入 4 年目の平成 29 年度に入学した 1 名も、本学の受入体制により順調な育成が進められた事例を紹介することで、志願希望者へ安心感が伝わるよう努めてきたが、問合せがあったものの志願に結びつかない状況となった。

現時点においては、順調に修学及び卒業できる事例があるものの、高校生としては同級生より 1 年早く高等学校を離れて、大学へ入学する事が現実的なものとして受入れづらく感じていることが、当制度への志願へ結びつかない大きな要因となっていると思われる。

平成 29 年度入学者においては、在籍する高等学校において他大学への飛び入学の実績を有する高等学校であったことから、高等学校での事前指導を受けたうえで志願までの過程がスムーズに行われていた。

現在、本選抜における在籍生はいない状況であるが、基本的な受入体制は現状を継承していき、広報活動において 2 名の受入実績を詳細に説明するとともに、国の制度として「飛び入学者に対する高等学校の卒業程度認定制度」が創設されたことを併せて紹介することで、飛び入学を視野に入れた進学を検討してもらえよう継続的な志願者確保及び入学者の獲得へ繋げられるよう工夫していきたい。

以上